

# 訪問診療にて「口腔内細菌カウンタ」を 口腔衛生の管理指導に活用



米永歯科医院  
**米永 哲朗** 院長  
(医療法人 米永会 理事長)

保有台数	1台
都道府県	大阪府大阪市

## ご経歴

昭和61年	朝日大学歯学部卒業
昭和61年	大阪医科大学臨床実習医(口腔外科学講座)
平成元年	米永歯科医院開設
平成5年	米永労働衛生コンサルタント事務所開設
平成11年	朝日大学歯学部非常勤講師(社会歯科学講座)
令和4年	日本口腔衛生学会専門医
令和4年	日本産業衛生学会代議員
令和5年	日本産業衛生学会近畿地方会歯科保健部会長

\*弊社から米永哲朗院長に依頼し、頂いたコメントを編集して掲載しています。

## どんな患者を診察されていますか？

**米永先生** 1989年の開業以来30年以上、20代後半～50代の働く世代や、お子様・ご高齢の方など、さまざまな患者を診察してきました。中でも特にご高齢の方が多い地域であるため、当院では、通院が困難な方からの要望に対応し、外来診療だけでなく、ご自宅や医療機関・介護施設への訪問歯科診療も行っています。

## 訪問診療で「口腔内細菌カウンタ」をご活用されていると伺いました。 導入を決めたきっかけを教えてください。

**米永先生** 診療では、適切な治療を提供するために診査や検査がとても重要となりますが、訪問歯科診療の現場では、診査・検査環境が十分に整っていないのが現状です。

「口腔内細菌カウンタ」は訪問歯科診療の現場でも軽くて持ち運びがしやすく、簡単に口腔衛生状態が把握できることが決め手となり、2022年4月の「口腔細菌定量検査」が新たに保険収載されたタイミングで使用を開始しました。

## 「口腔内細菌カウンタ」をどのように使用していますか？

**安田先生** 当院では現在、毎月約450件程度の訪問診療を行っていますが、「口腔内細菌カウンタ」は1台を共有し、以下の流れで活用しています。

当院の場合、「口腔内細菌カウンタ」での口腔内細菌数の検査は、全ての患者に使用するわけではなく、患者の年齢や状態に応じて検査の要否を歯科医師が判断します。

私が一番大切にしているのはラポール形成です。そのため突然、検査の提案をすることはありませんが、主に当院の方針で無歯顎や残存歯3本以下の患者には検査をしています。

目安として、毎月の約450件程度の訪問診療のうち、約100件程度は検査を実施しています。



米永先生

安田先生

当院では、歯科医師が滅菌綿棒で患者の口腔内の舌上の検体を摂取したのち、装置内のディスポーザブルカップ(測定溶液)に入れます。機器の操作は歯科衛生士もしくは歯科助手が行い、約1分経過後に検査結果が判明します。細菌数はレベル1~7の7段階で表示されるので、それを記録します。



検査結果に応じて、患者への口腔ケアの指導や高齢者施設スタッフへの説明をします。

口腔内の汚れが多い患者には、歯ブラシ、歯間ブラシ、舌ブランスポンジブラシを使っ  
ての口腔ケアやスケーリング等でバイオフィルムの除去を行います。

また、患者の状態にもよりますが、月1回の頻度で定期的に「口腔内細菌カウンタ」による測定を行い、本人のモチベーションを上げたり、測定結果の数字を明示することで、継続的な口腔ケアの重要性の理解を促します。

口腔内の細菌が多い原因は、ご自身の口腔清掃不良や加齢による唾液減少、口腔の筋肉や舌の動きといった機能の低下によることが多く、患者や施設の担当者に検査結果をお伝えし、口腔ケアの指導も併せて行っています。しっかり噛むことで唾液分泌が促せることを説明し、パタカラ体操や、場合によっては唾液腺マッサージを行い、口腔機能の向上をサポートしています。

口腔内の汚れが少ない患者の場合にも、ご自身に口腔の清潔やしっかり噛むこと、舌や唇といった口腔機能の大切さをお伝えし、本人の取り組みを褒めたり励ましたりしながら、サポートしていきます。

## 「口腔内細菌カウンタ」を使用するメリットは、どんなところにあると思いますか？

**米永先生** 何より患者への保健指導の時間短縮につながっていると感じます。検査結果もフェイスマークと数字で表示されるので、わかりやすいです。

「操作が簡単」というのは、訪問の現場ではとても大切なこと。これからも訪問診療の現場でしっかり「口腔内細菌カウンタ」を活用していきたいと思います。

## 歯科衛生士の立場で、「口腔内細菌カウンタ」のメリットはどんなところにありますか？



**歯科衛生士** 軽くて持ち運びしやすいところです。1分という短時間で結果が出るのもいいですね。

また、検査結果がフェイスマークで表示され、患者にも共有ができるので、結果をお見せしながら保険指導やモチベーション向上にも役立てています。

レベル6や7のように菌数の多い数値が出た場合にも、「泣いた顔のマークが出てしまっていますね。でも、これから一緒にかんばりましょうね。」などと声をかけやすいです。

